

◎景気ウォッチャー調査[2021年8月]

2021年8月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を14.8ポイント下回る34.2となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの感染拡大やお盆前後の長雨の影響で、景気はやや悪くなっている。」(テーマパーク)、「県独自の感染対策やまん延防止等重点措置の適用で、レジャーや外食には厳しい環境が続いている。」(高級レストラン)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を19.0ポイント下回る27.8となった。

企業動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「出勤を減らすテレワーク等により需要が激減している。」(コピーサービス業)、「大雨による災害防止、海外から輸入する部品の納期のひっ迫に、輸出元の新型コロナウイルス禍による物流の混乱が重なり、生産の臨時休止が発生しており、受注量や生産量が大幅に減少している。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.9ポイント下回る49.2となった。

雇用関連は、「求人数や求職者数は新型コロナウイルス流行前の水準に戻ったが、採用数は依然として、低水準で推移している。企業は採用に、求職者は就職に慎重になっている。」(人材派遣会社)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.0ポイント下回る48.5となった。

	8月	7月	前月差
合計	34.2	49.0	-14.8
家計動向関連	27.8	46.8	-19.0
企業動向関連	49.2	55.1	-5.9
雇用関連(参考値)	48.5	51.5	-3.0

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を10.3ポイント下回る39.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響が続き、客が外出を控えるため、景気はやや悪くなる。」(タクシー運転手)、「新型コロナウイルス禍での外出自粛、将来不安、個人所得の不安定により、需要の減少が続くため、景気は悪くなる。」(百貨店)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を10.7ポイント下回る38.0となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言が全国的に発出されているため、今後、景気はやや悪くなる。」(輸送業)、「半導体不足により、仕入れ部品や製品が入ってこないため、景気は悪くなる。」(一般機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を9.7ポイント下回る43.2となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの感染者数が爆発的な勢いで増加し、サービス業を中心に多大な影響を与えることから、景気はやや悪くなる。」(その他雇用の動向を把握できる者)、「まん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言の発出で、現状、企業に対する営業活動はやりづらくなっており、市場の経済活動が停滞することが間違いないため、景気は悪くなる。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を8.8ポイント下回る44.1となった。

	8月	7月	前月差
合計	39.7	50.0	-10.3
家計動向関連	38.0	48.7	-10.7
企業動向関連	43.2	52.9	-9.7
雇用関連(参考値)	44.1	52.9	-8.8